

中学校外国語 ～これからの指導と評価について～

山形県教育庁義務教育課

< Contents >

- ◇ 外国語科の目標の確認
- ◇ 学習評価の考え方
- ◇ 参考事例から考える指導と評価

本リーフレットは、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』（国立教育政策研究所作成）を参照しています。ぜひ、本リーフレットとあわせてご覧ください。

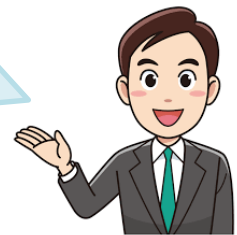
※対応するページ番号（p.○）を示しました。



◇ 外国語科の目標の確認

外国語科の目標は、

「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり
伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」
を育成することです。



外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、
言語活動を通して、資質・能力の育成を目指します。

Q. 言語活動とは？

- ①英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動
- ②コミュニケーションを行う
目的・場面・状況がある活動

言語材料等を理解するための「練習」は、言語活動の成立に欠かせませんが、「練習」に終始せず、「言語活動」を計画的に設定しましょう。



Q. 外国語科における資質・能力とは？

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

- 外国語の背景にある文化に対する理解
- 聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮
- 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力、判断力、表現力等

- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解 = **知識**
- 実際のコミュニケーションにおける知識の活用 = **技能**

コミュニケーションを行う目的や
場面、状況などに応じて

- 簡単な情報や考えなどを理解すること
- 表現したり伝え合ったりすること

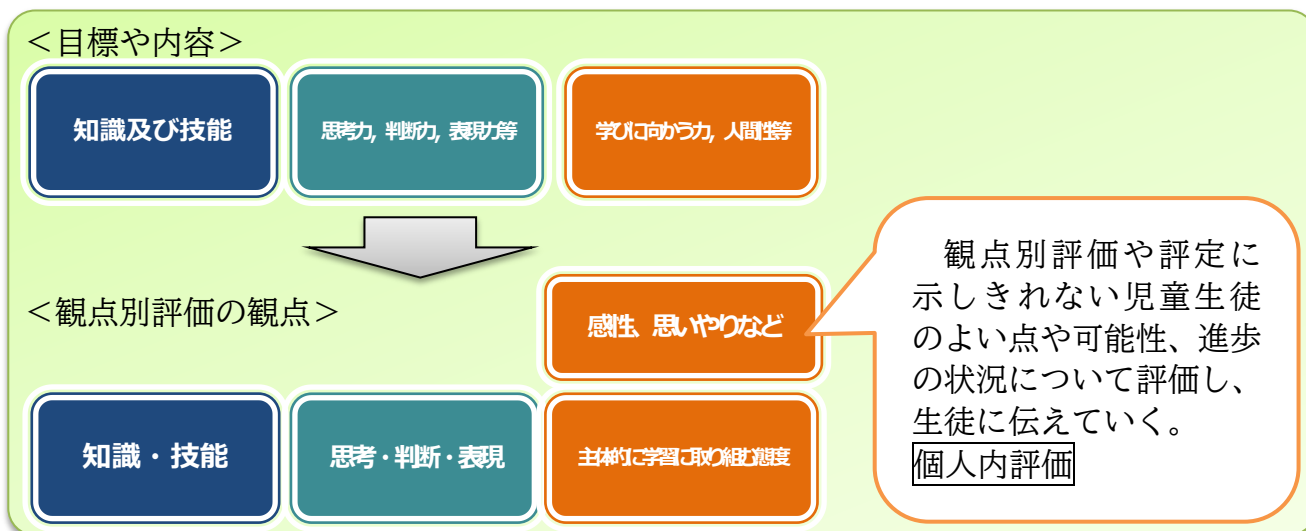
◇ 学習評価の考え方



学習評価の意義は、
教師の**指導改善**、生徒の**学習改善**につなげることです。
これまで行ってきたことでも、それが学習評価として適切か、その
必要性・妥当性を見直していきましょう。(p.5)

Q. 外国語科での学習評価の考え方は？(p.8～)

☞ 育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、各教科等における観点別学習状況の観点は次のように整理されています。



☞ 外国語科では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を、五つの領域ごとに評価します。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別 評価	評定
知識・技能	a	a	b	a	b		
思考・判断・ 表現	a	b	b	a	b		
主体的に学習に 取り組む態度	a	b	b	a	b		

一つの単元で、全ての領域・観点について**記録に残す評価**を行う必要はありません。

※記録に残す評価

= 観点別評価を行うために残す評価

※年度末には全ての領域・観点の評価をそろえます。

指導要録に
記載する
箇所

Q. 各観点はどのような状況进行评估するのか？

☞ 各観点における評価のポイントは次の通りです。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	話されたり書かれたりしている内容を理解できるかどうか		英語使用の正確さ ※使用する言語材料の提示がない状況で、それらを用いて話したり書いたりすることができるかどうか		
思考・判断・表現	目的、場面、状況に応じて、必要な情報、概要、要点を捉えることができるかどうか		目的、場面、状況に応じた表現内容の適切さ		
主体的に学習に取り組む態度	基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価				

- 単元導入時の意欲や挙手・発言の回数などで評価するのではなく、言語活動に取り組む中で、育成された態度を評価する。
- 「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価しつつ、言語活動への取組状況を観察して、その結果を加味することも考えられる。
(例)パフォーマンステストの結果で(c)と判断したが、
①振り返りの記述内容から、自己調整を図ることができていると判断。
②記述内容が言語活動において態度となって表れている。
以上を踏まえて、(b)とした。 (p.80 事例5)

Q. 評価情報をどうやって得るのか？ (p.42～)

☞ ここでは、各領域・観点の評価情報(a, b, c)を得るための評価方法の例を示します。必ずしもこの通りの方法ということではありません。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)		パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 (ペーパーテスト等の結果を加味)		
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度	自己評価(振り返りの記述内容)を参考				

※ペーパーテスト等 = ペーパーテスト(期末テストや単元テスト等)の他に、言語活動に用いるワークシート

※活動の観察 = 単元終末の言語活動やそれに至るまでの言語活動の観察

◇ 参考事例から考える指導と評価

指導と評価の一体化に向けて大切にしたいことは、

- ☆ 「記録に残す評価」は、生徒の力を**評価できる状態まで指導**してから行う。
- ☆ 評価の場面は**1回で終わらない**。
＝ 基準に到達していない生徒へのフォローを忘れずに行う。

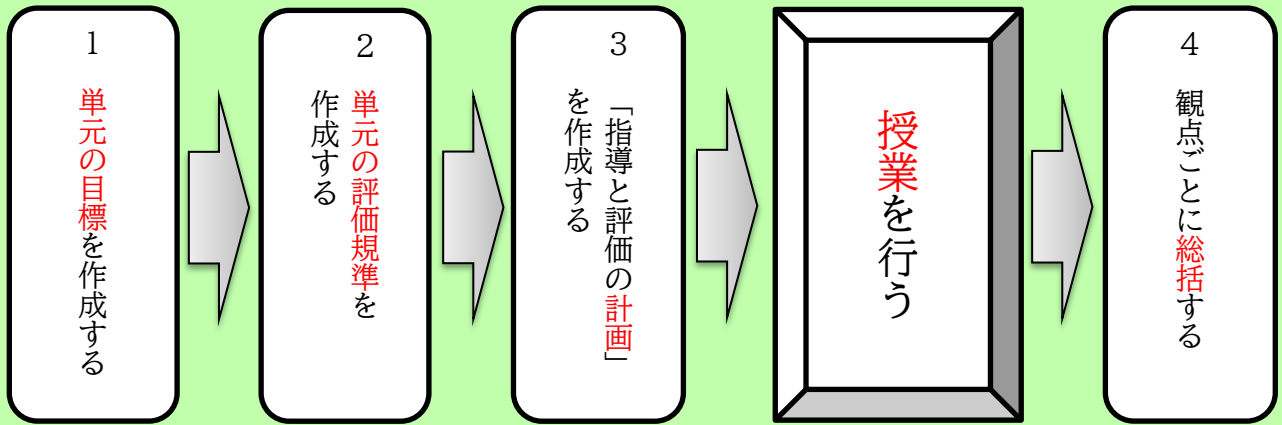
指導と評価を通して、生徒に**自信をつけて**いきましょう。



各単元における評価を実施するに当たり、進め方の一例を紹介します。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない例もあります。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第3編 事例2参照)

<学習評価の進め方> (p.37~)



1 単元の目標を作成する (p.56)

単元名

まとまりのある文章の必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする (第2学年 3学期)

内容のまとめり

「読むこと」イ、ウ

◇ 「読むこと」における第2学年の目標

日常的な話題や社会的な話題について、絵や図、表なども手がかりにしながら、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ったり、概要、要点を捉えたりすることができる。

☆ 一つの単元で全ての領域を指導・評価しようとするのではなく、**重点化**するなどの工夫も考えられます。

◇ 単元の目標と評価規準 (1) 目標

あるテーマについての英文を読んで概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合ったり、意見文を書いたりすることができる。

☆ 学年の目標を踏まえて、単元の目標を設定します。(「あるテーマ」を当該単元の具体的な話題に当てはめることも考えられます。)

2 単元の評価規準を作成する (p.56)

(2) 評価規準 (「読むこと」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 比較表現や受け身に関する事項を理解している。 [技能] 比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。

☆ 何のために概要、要点を捉えるのか、目的が明確になっています。

☆ 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、基本的に一体的に評価します。

3 「指導と評価の計画」を作成する (p.57~)

◇ 指導と評価の計画 (例)

時間	ねらい(■)・主な言語活動等	知	思	態	備考
1 2	■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。				☆ 第1～5時では記録に残す評価は行わないが、生徒の活動状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。
3	■教科書本文の要点を捉え、書き手の最も伝えたいことを伝え合う。				
4	■教科書本文の概要や要点を捉え、伝え合う。				
5	■教科書本文全体のテーマについて自分の考えなどを伝え合う。				
6	■意見文を読んで、概要や要点を捉え、自分の感想や考えを伝え合う。		○	○	
後日	ペーパーテスト (※問題例は後述「◆参考」に掲載)	○	○	○	☆ ○印のところで、「記録に残す評価」を行う。

授業を行う

4 観点ごとに総括する (p.62~)

ペーパーテストで「読むこと」の領域から3つの問題を出題した場合、正答数から次のように評価することが考えられます。

3問とも正解だった場合	a
1～2問正解だった場合	b
3問とも不正解だった場合	c

◆ 参 考 ～ペーパーテスト・パフォーマンステストの問題例～

ペーパーテストの作成にあたって

○ 「知識・技能」を評価する問題

当該学期で扱った言語材料（特定の言語材料）を必ず使用して作成。

○ 「思考・判断・表現」を評価する問題

特定の言語材料を必ず使用しなければならないわけではない。

問題には、目的や場面、状況などを必ず設定する。

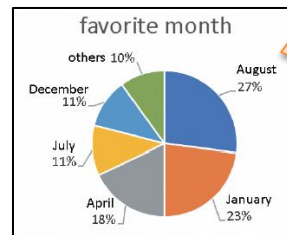
ペーパーテストの問題例（「聞くこと」「読むこと」の領域）

「知識・技能」を評価する問題

< 「読むこと」（言語材料：比較表現） > (p. 62)

下の円グラフは、中学生150人を対象に行われた「好きな月調べ」の調査結果です。この円グラフを表す英文として正しいものを選びなさい。

- ① January is the most popular month.
- ② July is not as popular as April.
- ③ April is more popular than any other months.
- ④ December is more popular than August.



比較表現を用いた、「文脈や使用場面」のある問題です。

「思考・判断・表現」を評価する問題

< 「聞くこと」（必要な情報を聞き取る） > (p. 67)

あなたの学校では、今週の土曜日に英語のイベントに出かけます。当日に向けて担任の先生に確認しようと思っていたことを書き留めていた【メモ】を見ながら、あなたは担任の先生の指示を聞いています。聞いた後、あなたが担任の先生に確認する必要がある内容はアからエのどれですか。最も適切なものを一つ選びなさい。

【メモ】

- 集合時間
- 集合場所
- 終了時刻
- 持ち物

ア 集合時間 イ 集合場所 ウ 終了時刻 エ 持ち物

(スクリプト)

Please listen carefully. I will tell you about the English Camp at Sakura Hall this Saturday. It will start at 10 am, so please arrive there by 9:45. Remember to bring your handbook, a pencil, and an eraser. You will need your gym shoes, too. You don't have to bring lunch. You will be making curry and rice with your friends and the ALTs. Don't bring any snacks! Any questions?

聞く目的、場面、状況が明確になっています。

内容を聞き取るだけでなく、その内容から自分が必要とする情報を判断する問題です。

< 「読むこと」 (概要を捉える) > (P. 60)

あなたと健司は二人でプレゼンテーションの原稿と表を作成することになりました。

The other day, I watched a TV program. Some young people went to an island and had to survive there for three days. They could take only one thing to survive. What did they take? They took things like food, a picture of family members, a camera, a PC, a mobile phone and so on. Most people took water. The second largest number of people chose knives and the third most popular item was lighters. It was very interesting to me, so I asked my classmates. Let's look at three most common answers they gave and the reasons for their answers.

Most people on the TV program chose water, but it wasn't the most popular item in my class. Six of my classmates chose water. They thought that they cannot survive without drinking water. They can catch fish and eat them, but they cannot drink seawater. Bottles of water are heavy but it's worth taking them.

A knife was the second most popular item both on TV and in my class. Seven of my classmates wanted to take a knife with them there. Why? They thought a knife is one of the most convenient tools. When they catch fish or get some fruit on the island, they can cut them with a knife easily.

A lighter was the third most popular item on TV, but it was the No.1 item in my class. Ten students wanted to take a lighter. They thought fire is the most important and necessary thing to survive. With a lighter, they can make a fire easily. They can keep warm and cook food. They said, "it can also be used to send an SOS to a helicopter."

Through this research, I learned that we all have different ways of thinking. What would you take to an island?

【問2】全校プレゼンテーション大会のプログラムに載せるため、このプレゼンテーションにどのようなタイトルを付けますか。下から選んでください。

- (1) The popular thing to research
- (2) The popular thing to use
- (3) The important thing to survive
- (4) The important thing to think

読む目的、場面状況が明確になっています。

問2は、書かれている英文の意味を読み取るのではなく、プレゼンテーション原稿の概要を捉えて、ふさわしいタイトルを判断する問題です。

最後に、「話すこと [やり取り]」におけるパフォーマンステストの事例を紹介します。

パフォーマンステストまでの指導 (単元を通して)

- ・ 評価することを継続的に指導する = 指導したことを評価する
- ・ 表現内容の適切さと、英語使用の正確さの両面から指導する
- ・ 言語活動の前にパターン (型) を示さない ⇒ 思考・判断させる

パフォーマンステストの問題例 (「話すこと [やり取り]」の領域)

< 課題 (第3学年 1学期) > (P. 52~)

次の用紙をテスト前に生徒に配付する。

AIに興味を持っているALTが、「AIの進歩と私たちの生活」に関する下の記事 [Article about AI] に関して、どう考えたり感じたりするか、また、互いの意見や感想についてどう思うかについて聞きたいと言っています。そこであなたたちは、この記事を読み、友達と意見交換することにしました。 [Article about AI] を読み、その内容に基づいてペアでやり取りをしてください。読む時間は3分です。

[Article about AI]

People have created a lot of things throughout history.

These days, AI robots are used in some areas of our daily lives. AI products will change our lives in the future. It is easy for us to get better lives with AI. There are already some AI products around us, and new ones will be made. For example, an AI fridge will be made in the near future. The fridge will tell us what to cook with the food in it.

AI will make our lives happier. What do you think?

やり取りをする目的、場面、状況が明確になっています。

「受け身、現在完了形を使ってやり取りをしてください。」と明示することはしません。

<採点の基準>

条件1：読んだ**英文を引用**するなどしている。

条件2：自分の考えたことや感じたことなどを**理由とともに述べている**。

条件3：相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら**対話を継続**している。

事例1は、評価したいこと（条件1～3）を、複数単元を通して**継続的に指導する**例を示しています。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

[Let's Think!]

実際のやり取り（例）から考えてみましょう。

先生方なら、『参考資料』p.52の生徒Aと生徒Bのやり取りについて、各観点の評価をどうしますか？

◇ 最後に



「令和元年度英語教育実施状況調査」の結果では、山形県の「生徒の英語による言語活動の割合」が前年度と比べて**大幅に増加**しました。先生方が「**言語活動を通じた指導**」を、より一層意識して実践されているからではないでしょうか。

今後さらに、**目標と評価を明確にして**、言語活動を通して生徒一人ひとりの英語力を向上させていきましょう。そのために、本リーフレットが先生方の参考となれば幸いです。